

第2章 教育目標達成への取組

1 幼児教育の充実

(1) 幼児教育の充実

幼児期において、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために、幼稚園教育の充実に努めるとともに、幼児期からの家庭教育の大切さを広く啓発し、子育てに悩む保護者の支援に努める。

市立幼稚園の現状

明治20年の旧熊本幼稚園の創立に始まり、戦後8園となる。昭和58年に旧熊本幼稚園と旧五福幼稚園が統合され、7園（碩台幼稚園・一新幼稚園・向山幼稚園・古町幼稚園・川尻幼稚園・楠幼稚園・熊本五福幼稚園）となった。平成4年度から3・4・5歳児の3年保育を始め、平成6年度から全園で実施している。平成22年3月の合併により、隈庄幼稚園が加わり8園となった。

また、平成27年度からスタートした国の子ども・子育て支援新制度にあわせて施設型給付の幼稚園へ移行するとともに、保育料について世帯所得に応じたものとなるよう改定を行った。

平成28年熊本地震で住家が半壊以上の被災をされた世帯へ平成28年度、29年度の保育料減免を実施した。

平成30年3月末で古町幼稚園と熊本五福幼稚園が閉園し6園となった。

・園児数 353人（平成30年5月1日現在）（平成29年度園児数 461人）

市立幼稚園基本計画

平成27年度の取組

特別支援教育の推進、公私含めた幼稚園教諭等の資質向上や幼・小接続の取組の推進等の幼稚園教育をリードする「コア幼稚園」としての機能強化、平成30年度古町幼稚園・熊本五福幼稚園の閉園と民間移譲の内容などを含む「熊本市立幼稚園基本計画」を策定した。

平成28年度の取組

「コア幼稚園」として、具体的な取組を推進するとともに、民間移譲に向けた公募を行い、熊本五福幼稚園については、学校法人熊本YMCA学園を引受法人として決定した。（古町幼稚園については、応募がなかったため、平成29年度に再募集を行うこととした。）

平成29年度の取組

古町幼稚園の引受法人の再募集を実施し、学校法人グリーンコープを引受法人として決定した。古町幼稚園・熊本五福幼稚園において、民間移譲に向けた合同保育を実施し、平成30年3月を以って閉園した。

平成30年度の取組

古町幼稚園・熊本五福幼稚園において平成30年4月に民間移譲を完了し、「あゆみの教室」を平成31年度に川尻幼稚園で開設するために、指導者の研修や教室の整備等の準備を進める。

幼稚園教職員の資質向上

幼稚園教諭を対象とした職能研修として、2回の幼児教育研修を実施している。平成28年度からは、公私含めた幼稚園教諭の資質向上を目的として、市立幼稚園の教諭だけでなく、研修への参加を希望する私立幼稚園等の教諭も対象としている。また、市立幼稚園の教諭を対象とした経年

者研修は、法定研修である「初任者研修」及び「10年経験者研修」があるが、小・中学校の教諭と比較すると研修の機会は少ない。そこで、平成28年度からは「15年経験者研修」「20年経験者研修」に参加できるように研修体制を見直し充実を図っている。

ことばの教室

昭和58年に熊本五福幼稚園に幼児言語治療学級を設置し、現在はことばの教室として、構音や吃音など、ことばの課題の改善を図ることで心と体の望ましい成長と発達を促すことを目的に、年長児を対象として通級指導を行っている。

平成26年度から、指導者を3人増員して碩台幼稚園に拡充し、熊本五福幼稚園の7人と合わせて10人の指導者で実施している。

なお、平成30年度から熊本五福幼稚園は民間移譲となり、ことばの教室については引き続き同敷地内にて「向山幼稚園五福ことばの教室」として市の直営で実施している。

- ・通級児数 118人（五福82人・碩台36人）（平成30年5月1日現在）
- ・平成29年度実績 129人（五福93人・碩台36人）

(2) 家庭教育支援

就学前手引書

就学前手引書として「ピカピカ1年生カレンダー～入学へのアプローチ～」を各学校で行われている就学时健康診断等の機会を利用し、内容を説明すると共に各家庭に配布し、小学校生活へのスムーズな橋渡しができるよう支援している。